

いつも、インシデント報告ありがとうございます

2019.04.17

京大病院医療安全情報111

【効果的な他科依頼箋の書き方】

～SBARを活用しませんか？～

2018年度の医療安全管理活動目標は、「コミュニケーション」でした。昨年度を振り返って、事例から学びたいと思います。

他科依頼時に情報伝達エラーがあり、 必要な薬剤の処方が漏れた事例

内科の医師が、外来診療中の患者の慢性腎不全と高カリウム血症について、腎臓内科にコンサルトした。
「（略）高カリウム血症に対し、アーガメイトゼリーを処方しております。腎機能について貴科的にご高診いただけるでしょうか。」

腎臓内科医は、アーガメイトゼリーは内科で処方されると考え、処方には内科に任せ、検査の予定のみを立てた。その後、内科医が診療したが、アーガメイトゼリーは腎臓内科医が調整するものであると思い込み、わざわざ、定期処方から削除した。

患者帰宅後、カルテを整理・記載していた腎臓内科医は、内科医がアーガメイトゼリーを処方していないことに気付いて、患者に連絡した。翌週来院の予定でしたが、その数日の間に高カリウム血症が進行した。

インシデント報告に基づいた対策です

京大病院医療安全情報111

相手に重要事項を短時間で伝えるために
【SBAR】を活用しよう

S: situation	状況
B: background	背景
A: assessment	評価
R: recommendation	提案

※SBARは、米国国防省患者安全プログラムとAgency for Healthcare Research & Quality (AHRQ)が共同開発した患者安全のためのチームトレーニング (TeamSTEPPS®) のツールの一つです。

改善
案

SBARを活用した他科依頼例

いつもお世話になっております。

【状況】患者さんは、〇〇疾患に対し、当科で加療中ですが、数か月前から腎機能低下と高カリウム血症を認めております。

【背景】当科では●●とアーガメイトゼリーを処方しており、かかりつけ医からは△△、××が処方されています。

【評価】薬剤性腎障害の可能性を疑っております。

【提案】貴科にて腎機能について、ご高診いただけますと幸いです。なお、今回、当科からはアーガメイトゼリーを処方しておりませんので、高カリウム血症の治療も併せてお願いいたします。

【Recommendation】を意識しましょう。
診察だけの依頼なのか、処方薬の調整も依頼するのか、
明確に、「提案」したほうがいいですね。



医療安全管理室作成